

2022年度（前期・後期） 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科  
科目等履修生[本学附属病院職員向け]募集要項（案）

1. 募集専攻名： 看護先進科学専攻
2. 募集人員： 各科目若干名
3. 履修可能単位数： 8単位以内
4. 出願資格： 4年制大学卒業者（2022年3月卒業見込の者を含む。）
5. 出願手続

(1) 出願受付

期間：（前期）2021年12月20日（月）から2022年1月7日（金）  
（後期）2022年5月30日（月）から2022年6月10日（金）

出願方法：簡易書留郵便により『保健衛生学研究科科目等履修生出願書類在中』と朱書きした角形2号の封筒により、出願受付期間内に必着のこと。

送付先：〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45

国立大学法人東京医科歯科大学統合教育機構事務部学務企画課大学院教務第二係

※出願にあたっては、予め各授業科目担当教員と履修の可否について相談の上、認印を付けて提出すること。

(2) 出願書類等（出願書類は、学務企画課ホームページにて配付する。）

- ① 科目等履修生入学願書（様式1）
- ② 履歴書（様式2）
- ③ 最高学歴の卒業（修了）証明書又は卒業（修了）見込証明書及び成績証明書（延長者を除く。）
- ④ 返信用封筒（角形2号の封筒の表面に、住所・氏名を記載し、簡易書留速達郵便料金分に相当する750円切手を貼付したもの）
- ⑤ 検定料 9,800円

検定料（9,800円）を振り込んだことがわかるもの（例：銀行窓口での振込依頼書、ATMご利用明細票、インターネットバンキング振込完了ページを印刷したもの等）を入学願書にクリップ留めをして同封すること。

検定料振込先 三菱UFJ 銀行本店  
普通預金 7897115 国立大学法人 東京医科歯科大学

※ 振込人氏名の前に、必ず下記の該当する番号を入力し振り込むこと。  
前期募集 25300

## 後期募集 25400

⑥ 外国人の場合、在留資格を証明できる書類の写しを提出すること。

### 6. 選考及び結果

書類審査により選考し、前期出願者は2022年2月中旬に、後期出願者は2022年7月中旬に、結果を本人宛に郵送にて通知する。

### 7. 入学手続

合格者は、下記により入学等の手続を行うこと。

(期間内に手続を完了しないときは入学を許可しない。)

#### (1) 入学手続受付

期 間：(前期) 2022年2月14日(月)から2022年2月18日(金)  
(後期) 2022年7月19日(火)から2022年7月25日(月)

手続方法：入学手続書類を簡易書留郵便により『保健衛生学研究科科目等履修生入学手続書類在中』と朱書きした角形2号の封筒により、手続期間内に必着のこと。

送付先：〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45

国立大学法人東京医科歯科大学統合教育機構事務部学務企画課大学院教務第二係

#### (2) 入学手続書類等

① 誓約書(合格通知に同封。)

② 学生証(身分証明書)発行台帳

③ 写真(出願前3ヶ月以内に撮影したもので上半身脱帽のもの)

縦4cm×横3cm・・・1枚、縦5cm×横4cm・・・1枚

④ 卒業(修了)証明書(出願時に卒業(修了)見込証明書を提出した者。)

⑤ 入学料 28,200円

入学料の納入は、指定の口座へ振込し、振り込んだことがわかる明細等を入学手続の際に送付する所定の様式に貼付し、提出すること。

### 8. 授業料：1単位につき14,800円(2021年度実績)

なお、授業料の改定が行われた場合には改定時から新料金が適用されます。

※授業料の納入方法は、後日預金口座からの自動引落としにより行います。(入学手続の際に詳細をお知らせします。)

### 9. その他

(1) いったん出願手続または入学手続を完了した者に係る出願書類及び既納の検定料・入学料はいかなる理由があっても返還しない。

(2) 出願書類が全て揃っていない場合は受付できないので、出願の際はよく確認すること。

(3) 入学手続完了者で授業料を納付した者が、前期出願者は2022年3月31日までに、後期出願者は2022年9月30日までに入学辞退及び一部科目等履修の取り消しを申し出て許可された場合は、当該授業料相当額を返還する。

(4) 選抜に用いた個人情報を教育目的以外に使用することはありません。

本募集に係る照会

東京医科歯科大学統合教育機構事務部

学務企画課大学院教務第二係

〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45

TEL. 03-5803-4534

2022年度科目等履修生開設授業科目一覧

看護先進科学専攻

①共通科目

授業科目名	単位数	講義等の内容	授業担当者 (電話番号・メールアドレス)
看護学研究法特論	2	看護研究のプロセスと多様な看護学研究法、文献クリティーク、研究における倫理、科学哲学の基礎を学び、看護活動の質向上や看護技術の開発に必要な基礎的研究能力を修得する。	大久保 功子 5803-5349 kouko.rhn@tmd.ac.jp
看護管理学特論	1	看護管理者・実践者(専門看護師を含む)・研究者・教育者として、組織・社会においてリーダーシップやマネジメント能力を発揮し、保健医療福祉に関わる人々間の調整や看護管理者との協働を通して、必要な変革を起こしながら質の高い看護・医療を提供できる能力を養成する。	緒方 泰子 5803-5358 yogata.gh@tmd.ac.jp
看護教育学特論	2	看護基礎教育・専門職の継続教育において、教育的役割を果たすために必要な教育の原理、教育制度および方法や技能について学ぶ。また教育的機能が、看護ケアの質向上にもたらす効果を理解し、そのための教育環境整備ならびに継続教育のあり方を学ぶ。	田中 真琴 5803-5351 tanaka.cc@tmd.ac.jp
国際看護研究方法論	2	諸外国で広く活用されている看護研究方法について、英語を用いた授業を行い、高度な教育・研究能力とともに、国際的に活躍できる、実践力・語学力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力を修得する。また、国際共同研究の実際や国際共同研究計画案の能力開発を目指し、国際的に価値がある高度な研究能力の修得を目指す。	近藤 暁子 5803-5387 akondo.ind@tmd.ac.jp
看護理論	1	看護を学問として発展させていくために必要な教養を修得する。一つには、他の学問領域との対比において、どのように看護が学問として発展してきたのか、科学哲学の変遷を元に理解する。概念、モデル、理論と、看護学の学問的発展との関係について論じる。概念分析の手法について学ぶ。以上を通して、看護学においてよく使われる概念、モデル、理論をその背景も踏まえて理解し、説明する能力を修得する。	大久保 功子 5803-5349 kouko.rhn@tmd.ac.jp
看護倫理	1	看護倫理、臨床倫理、医療倫理、それぞれの誕生した歴史的背景を理解し、今後どのように看護倫理に取り組むべきか、自分自身のビジョンを描く。	大久保 功子 5803-5349 kouko.rhn@tmd.ac.jp

②専攻科目

授業科目名	単位数	講義等の内容	授業担当者 (電話番号・メールアドレス)
地域健康増進看護学特論 I	2	地域で暮らす人々の健康寿命の延伸を目指して、日常の生活習慣が経年変化に与える影響を学際的に分析し、その基本的考え方と研究法を修得する。また、健康増進に関する健康教育技法等について国内外の文献を吟味し、基礎的知識を修得する。	森田 久美子 5803-5337 morita.phn@tmd.ac.jp
先端侵襲緩和ケア看護学特論 I	2	先端的医療や侵襲的治療を受ける人々とその家族を理解し、重篤期、回復期、セルフマネジメントや緩和ケアを必要とする時期を含め、様々な対象への専門的看護を検討する上で必要な理論や研究方法を学ぶ。実践の評価、新たなケア開発のための基礎的能力を研究論文を題材にした討議により修得する。	田中 真琴 5803-5351 tanaka.cc@tmd.ac.jp
小児・家族発達看護学特論 I	2	小児とその家族を生涯発達の視点から捉え、看護の対象としての理解を深める。小児の成長発達についての高度な専門知識と、小児の健康、疾患、障害、生活および家族について関連学問領域の知見を学び、看護問題と看護援助、および理論を学び、修得する。また、小児とその家族をとりまく保健、医療、福祉の制度の理解と活用法を修得する。	岡光 基子 5803-5342 motoko.cfn@tmd.ac.jp
国際看護開発学特論 I	2	日本および国際的に取り組むべき看護保健医療の諸問題・健康問題について、様々なデータベースを用いてシステムティックに文献をレビューし、独創的かつ国際的に普遍性ある研究課題を提案するための問題抽出・分析視点を得る方法を学ぶ。	近藤 暁子 5803-5387 akondo.ind@tmd.ac.jp
災害看護学特論 I	2	主要な災害の急性期において、心身のクリティカルな状況にある人々の、身体状況、精神心理状況について理解するとともに、災害時医療の原則、医療救護、被災者・支援者への心身のケアの実際、継続的な看護支援のあり方について学修する。	佐々木 吉子 5803-5347 y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
クリティカルケア看護学特論 I	2	心身のクリティカルな状況にある人々へのケアとケアが融合したベストプラクティスについて、米国クリティカルケア看護師協会 (American Association of Critical Care Nurses ; AACN) が開発した、AACN synergy model for patient care(英語原文)を読み解きながら、患者、看護師にとって最適な治療環境を築くための看護実践のあり方について探究する。	佐々木 吉子 5803-5347 y-sasaki.dn@tmd.ac.jp